

平成28年度 森林総合研究所北海道支所研究評議会

1. 開催日時・会場

平成29年2月21日（火）14時00分～16時20分
森林総合研究所北海道支所大会議室

2. 評議会委員

石原 聡 委員（北海道森林管理局森林整備部長）
佐藤冬樹 委員（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授）
谷 一之 委員（下川町長）

3. 出席者

北海道支所：支所長、産学官連携推進調整監、地域研究監、チーム長、研究グループ長、連絡調整室長、庶務課長
北海道育種場（オブザーバー）：育種場長、育種課長

4. 評議会内容

・北海道支所活動報告

目標と課題（第4期中長期計画、重点課題（4課題）と戦略課題、「橋渡し」機能の重視、支所研究目標）

組織機構（研究員3名増）

研究予算（研究費は外部資金、競争的資金の割合大きい。外部資金は科研費、政府補助金、政府等外受託などの割合が高い。）

研究推進（支所の重点課題、発表業績等）

広報活動（一般公開、研究成果発表会、刊行物、HP、標本館、桜並木開放等）

地域連携（森林管理局、道総研、北大等との連携・共同研究、下川町との共同研究協定、農食研事業後の成果普及や機械導入、現地検討会、研修等の受け入れ、委員・講師など）

・北海道育種場活動報告

採種園造成・更新のためのトドマツ優良クローンの選抜、特定増殖事業者への支援、夕張市との薬用樹種共同試験

・研究紹介（主要成果をピックアップして紹介）

➤「育林作業機械化の試み」（地拵え機の開発と地拵え効果実験、自動植付機の開発研究の紹介）

➤「越境大気汚染物質であるオゾンによってブナ林では葉の老化が早くなるー森林に対するオゾンの影響を初めて解明ー」（Nature 姉妹紙 Scientific Reports に掲載された、汚染物質による森林への影響に関する研究の紹介）

5. 評議会委員からのコメント

・支所の研究目標は北方天然林を中心とした森林管理手法の開発等とされているが、

人工林の伐採・更新技術開発も含むものであり、人工林も含めて天然更新力の活用が期待できる北海道の特徴を踏まえた目標であると理解した。

- ・以前よりも応用的な研究の推進に力を入れている印象があり、「橋渡し」とはどのような中身なのかも理解した。森林・林業基本計画も改定され、林業の成長産業化が喫緊の課題となっている中で、今後ともその解決に繋がる研究の推進をお願いしたい。
- ・北海道支所で行われている技術開発等の応用研究やその成果の橋渡しは重要である一方、学術的に質の高い基礎研究を推進することも研究機関として大切なことであると思うので、その両輪で活動してほしい。